



# JAL不当解雇撤回ニュース

No409号 2014.11.30  
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局  
連絡先: 航空労組連絡会事務局  
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4  
フェニックスビル内  
TEL: 03-3742-3251 FAX: 03-5737-7819  
<http://www.jalkaikotekakai.com>

## 日航大西会長に直接要請

### 11月10日 第30回稲盛財団京都賞授賞式宣伝行動

11月10日、稲盛財団の京都賞授賞式参加者のみなさんに、JAL 不当解雇撤回を求める宣伝行動を行ないました。

#### 不当解雇撤回求め、チラシにマイク宣伝 街宣車で会場近辺を「流し宣伝」

当日は晴天に恵まれ、絶好の宣伝日和。ハンドマイクで呼びかける向こうに、紅葉した美しい比叡山の山並みを望みながらの宣伝行動です。

地下鉄を出て授賞式会場——国立京都国際会館に向かう地点には、山口宏弥乗員原告団長、内田妙子客室乗務員団長はじめとするたくさんの原告、宣伝行動の主催者「日本航空の不当解雇撤回をめざす京都支援共闘会議」に結集する多くの労組や「JAL 闘争を支える京都の会」の仲間が参加し、宣伝行動を実施しました。

「路上に駐車するな」という国際会館＝京セラ側の言に従い、街宣車を使って会館前や会場周辺で「流し宣伝」を行ないました。

団京都賞の授与は今年で 30 回目です。受賞者である内外の学者・文化人の方には、毎回一人五千万円の賞金を手渡すそうです。たびたび経済界の雑誌からも暴露されている「もうけなくして安全なし」というような稲盛イズムで、JAL 再建で得た株で不当に儲けたともいえる金も使い、「札束で人のほっぺたをひっぱたく」様な行事が連続と続けられてきたのです。

#### 「争議の早期解決を決断すべき」 両団長が大西会長に直接要請

稲盛ファミリーと関係のない市民・学生が参加した 9 月 29 日のゴア元米副大統領記念講演会ほどパーフェクトな感じではさすがになかったが、開会の 90 分前から宣伝を開始。参加者のビラの受け取り具合は概ね良好。そこに日航の大西会長が。

原告団が何度も団交申入れに行っても袖にされてきました。チラシを配布していた山口団長は、すかさず大西会長に声をかけ、内田団長も後に続き、一緒になって直談判となりました。

山口団長からは、「パイロットの退職が 170 名に及んでいる事、

解雇撤回し職場に戻すべきであること」、内田団長からは「毎月、要請文を持参して直接面談を申し入れているが、毎回部下に対応させ門前払いの繰り返し



会場に向かう大西会長に訴える内田団長。後方を歩いているのは山口団長

であること、客室乗務員を 1800 名以上採用しながら、会社都合で解雇した 84 名を戻さないのは不条理であること、ILO は二次勧告で職場復帰させるための協議を求めていること、当時解雇回避の方法がありながら解雇を強行したが、交渉過程で起きた不当労働行為が地裁判決でも断罪されたのであるから、解雇問題について解決する決断を下すべきであること、当時の社長であった大西会長にその責任があること」を平行歩行しながら話した。

大西会長のお連れの方が自ら「大西の妻です」と歩み寄られ、誠実なコメントをいただいたのは、殺伐とした会社の対応ばかりの長期にわたる労働争議の中での、一服のすがすがしい料飲とも言える対応でした。

#### 要請団を構成して申し入れ 要求読み上げ市民にもアピール

その後、京都支援共闘、京都総評、両原告団連名の要求書「稲盛名誉会長は発言に責任を持ち争議の解決を(要求)」を携



え、代表団を編成して申し入れを行なった。

会場への渡り廊下で京セラ側が待ち受け、「稲盛会長に手

渡すことを努力する」という約束を、押し問答の末勝ち取った。要求書を山口団長がハンドマイクで読み上げ、式参加者や通行の市民にもアピールしました。